救世軍公報

SALVATIONIST ときのこえ

2019年標語「主の栄光を語り伝えよう」（旧約聖書　歴代誌上 16章24節）

二〇一九年五月十五日　発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行　広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

初夏号
広報版
2019
May-June
No.2784

2019年　救世軍標語

「主の栄光を語り伝えよう」

国々に主の栄光を語り伝えよ
諸国の民にその驚くべき御業を。

聖書箇所：歴代誌上16章24節

表紙の写真：新任士官任命式の席上、子どもを神様に献げたことを記念する銀星章を受けた両親と新任中尉夫妻

はじめまして！

3月末、オーストラリア軍国から来日したピーター・ホワイト少佐（医療部長）、ゲイル・ホワイト少佐（士官学校長）です。

『ときのこえ』福音版　6月号に、ホワイト少佐夫妻の証言を掲載いたします。ご期待ください。また、それぞれの任地である、医療部及び士官学校のためにお祈りください。

－－－－－－きりとり－－－－－－

□『ときのこえ』購読を申し込みます。
（1年分1140円。税込、送料別）
□キリスト教についてもっと知りたいです。
ご氏名＿＿＿＿＿＿＿＿
ご住所＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿

ときのこえ　SALVATIONIST

初夏号　広報版
2019 May－June
NO.2784

もくじ

■メッセージ
真実な神の憐れみ
司令官 大佐 ケネス・メイナー …… 3
■主の栄光を語り伝えよう
証言　中尉　樋口　光世
中尉　樋口　潔
候補生　眞鍋　恵 …… 4
候補生　眞鍋　嗣道
■〔連載〕聖潔の流れに立つ　第六回
ウイリアム・ブースの聖潔
中将　張田 望 …… 5
■集会報告
士官任官式
新任士官任命式 …… 6
士官候補生歓迎集会
米国総司令官による講演会
3.11記念集会 …… 7
■各地のニュース!!
士官の家庭に生まれた子どもの会
麻布小隊感謝会 …… 8
関東東北連隊 新年懇親会
清瀬病院開設80周年記念集会
横須賀分隊リニューアル！ …… 9
熊谷小隊、機恵子寮、月島小隊、
仙台小隊コミュニティセンター（仮称）
起工式 ……10
西日本連隊 召天者合同記念会
神田小隊、社会福祉部 ……11
■YP（青少年部）・ファミリーニュース
大森小隊、杉並小隊、西日本連隊
泉尾小隊 ……12
■軍国ユースセミナー19
■社会鍋の支援活動
■女性部ラリーのご案内 ……13
■救世軍見解表明
社会道徳に対する救世軍の立場
第1回 人工妊娠中絶（1）
■救世軍公報 ……14
■召天記事／軍国インターンシップ・ミニストリー（仮称）について／集会案内
■救世軍歌集 作者物語 第231回（最終回）
……15
■麻布小隊野戦風景
■社会鍋支援活動アルバム ……16

真実な神の憐れみ

士官任官式　説教（イザヤ書 61章1～3節）

司令官　ケネス・メイナー

復活のキリストの素晴らしさのゆえに御名をほめたたえます。神はそれぞれの人生の歩みの中で常に真実を現してこられました。その真実に感謝いたします。

二人（樋口潔中尉・光世中尉）は、神によって救われ、召し出され、それに応答し、救世軍士官として一歩を踏み出しました。今日の世界は、真実の憐れみを切実に必要としています。人々は何とかしてそのような憐れみをつかみ取り、得ようとしているのです。神は、わたしたち一人ひとりを召し出し、真の憐れみを現す者となれ、と命じておられます。

イエスは会堂で、イザヤ書六一章の箇所を引用して、「この聖書の言葉は、今日……実現した」（ルカ4・21）と言われました。真実な神は、新任士官に対して真実であられたように、わたしたち一人ひとりにも真実を現しておられます。なぜなら、わたしたちの中に、貧しい人、心傷ついた人、罪に捕らわれている人、打ち負かされ、絶望している人がいるからです。憐れみの使者として生きる、それは神の預言の成就がイエスによって示されたように、わたしたちを通して示そうとされているゆえです。

「灰に代えて冠をかぶらせ　嘆きに代えて喜びの香油を　暗い心に代えて賛美の衣をまとわせるために。」（イザヤ61・3）

憐れみという言葉には、痛み、苦しみのそばに行く、という意味があります。憐れみとは、怒りや苦々しさに捕らわれている人のそばにわたしたちが行って、共に座り、赦しを宣言することです。そのようなことが不可能に思える時にも、御言葉に示されたイエスの模範に従う者でありたいのです。

イエスの手は常に人々に開かれ、その手は人々に触れておられました。憐れみの使者となるために、わたしたちの両手は、広く開かれていなければなりません。イエスは常に周りの人々に心を向けられました。真実の憐れみを伝える者、神の国の勇者となるためには、周りの人々に心を向けなくてはなりません。

憐れみを伝える者となることは、あなたの周りにいる人々を知ることから始まります。イエスは群衆をご覧になりました（マタイ14・14）。イエスは混乱している様子の群衆をご覧になり、憐れみの心をもたれたのです。イエスがご覧になったように、わたしたちも他の人々を見る者となりたいのです。イエスはまた、目の見えない人々をご覧になり、深く憐れまれて、彼らの目に触れられました（マタイ20・34）。

神の召しに対し、「わたしがここにおります。わたしを用いてください」と言うことが大切です。イエスがご覧になったように人々を見て、イエスがお応えになったように人々の求めに応えるために。

イエスは、人々の中に入って彼らの声に耳を傾けられました。ルカによる福音書一七章には、イエスが村に入られた時に、重い皮膚病の人々が出迎えたことが記されています。その時、イエスの歩みは中断されましたが、彼らをとがめることなく、彼らの声に耳を傾け、その必要にお応えになりました。

日々の生活の中で、突然人々の求めに応えなければならないことがあります。十二年間出血が続いている女性がイエスの衣に触れた時、イエスは、「なぜ私のパーソナルスペースに入ってくるのだ」と怒ることはなさらず、その女性と会話し、彼女の求めに応えられました。

わたしたちは、時に一方的に自分の意見だけを言いに来る人に出会います。また今、声が大きければよい、とばかりに大声による騒音が溢れかえっています。憐れみを伝える者となるために、貧しい者、心傷ついている者、捕らわれている者のところへ行くように、とイエスは招いておられます。それらの人々を見、その求めに応えるようわたしたちは招かれているのです。

これから、以下の三つのことにぜひチャレンジしてください。

まず、一日五分間、自分とは異なる状況にある人の立場に自分を置いて考えましょう。聖書は、喜ぶ人と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい、と命じています。

第二に、あなたが話すより前に、まず聞く者となるよう神の助けを求めましょう。

「聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい」（ヤコブ1・19）

とあるように。

ゆっくり話すことのできる人は、その人のうちに聖霊が働くことを許すことができる人なのです。

第三は、あなたが親切で、憐れみ深い人となることを妨げていることがあるならば、その妨げが何かをはっきり見ることができるよう祈りましょう。憐れみを伝える者となるのと同時に怒り続けることは不可能です。

神が、わたしたち一人ひとりが常に目を開いて人々を見、そしてその両手を広げて人々に触れることができるように、と助けてくださるように祈ります。

神があなたの心を耕して、強くかつ柔らかい心を与えてくださるように、お祈りを献げましょう。

（大佐）

主の栄光を語り伝えよう

証言（あかし）　新任士官任命式及び候補生歓迎集会より

中尉　樋口光世

士官学校は、自分自身が何もできない存在であることを十分に知り、ただ神様だけに頼るという土台を築く二年間であったように思います。知恵、力、愛、すべての源である神様により頼む時、不思議と道が開かれる経験を何度もしました。どんな小さなこともすべて神様に尋ね求めて祈る、という鍛錬（たんれん）の時でした。神様からの祈りの応答は、

「主があなたたちのために戦われる。あなたたちは静かにしていなさい」（出エジプト14・14）

の御言葉（みことば）でした。この祈りの答えにハッとさせられ、自分の思うようにいかなければ不満を言い、想定外のことに右往左往してしまう、何でもコントロールしようとする強い自我に気づかされました。悔い改め、祈った時、復活の主であり、生けるイエス・キリストを知ることができました。

ただ神様だけにより頼んで、備えられた一歩一歩を歩み、神様に自由に用いていただきたい、と願うばかりです。（帯広小隊付）

中尉　樋口　潔

神様はいつも善なるお方であり、そのご計画は完璧（かんぺき）で、すべては神の御手（みて）の中、その摂理の中にあります。『救世軍歌集』（コーラス6番）「いけるみ霊（たま）よあらたに」の原詩に、「わたしを砕き、わたしを溶（と）かし、わたしを満たしてください」とありますが、私の士官学校の経験はこの通りでした。

神様は、この二年間いろいろな形、方法で私を取り扱われ、心の深いところを探（さぐ）られました。特に二人の子どもたちと、家族四人で士官学校に入校することで、子どもたちの姿を通して自分がとっくに忘れてしまっていたような痛みや、知らぬ間に自分でふたをしてしまっていて癒（ゆ）されていない傷に気づかされました。泣いている子どもの姿が、幼い頃の自分と重なり、ずっと忘れていた気持ちがふとした時に鮮明に思い出される経験を何度もしました。そのたび、押し殺していた怒りや悲しみという感情や放っておいた傷を祈りの中で神様の前にもって行く、という作業をしてきました。それは本当に苦しく、痛みを伴う行程でした。それでも憐れみ深い神様は、そんな私をその都度（つど）大きな愛で包んでくださり、私の手を引いて一歩一歩前に進めさせてくださいました。そうして神様は私の頑（かたく）なな心や不必要に身に着けたものを、また、神様が本来私にもっておられるデザインとは違う、私の中の凝（こ）り固まったものを一つ一つ砕いてくださいました。その圧倒的な神様の愛が私を溶かし、これまでの人生で間違ってインプットされた情報を書き直すように、聖書の言葉、賛美の歌詞、講師の方々の言葉を通して正しくされ、もう一度神様からのメッセージを受け取り、自分が新しく形づくられていく経験をしました。苦手なこと、息苦しさ、自分で無理をしていたこと、そういうことから一つ一つ解放され、楽になっていきました。

砕かれ、溶かされ、新たに形づくられていくと、これまで以上に神様の愛がストレートに自分に流れ込むようになり、より聖霊を、神様の愛を感じることができるようになりました。

そして、自分は本当に神様に愛されている神の子だ、と心から実感し、信じることができるようになりました。以前よりしっかりと神様につながることにより、神様が私を救世軍士官として召してくださったことを確信しました。

「わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」（ローマ5・5）

神様の愛に突き動かされて、神様と人々に仕えていく者でありたいと願います。（帯広小隊長・北海道連隊青少年部書記）

『恵みを伝える者』の学年　候補生　眞鍋　恵

私は幼い頃から自分は人より劣っているというコンプレックスを抱え、学校など人と能力を比べられる場所がとても苦手でした。信仰をもった後も、霊的に成長できないのは、自分の能力、弱さのせいだと勘違いしていました。両親が士官で、救世軍の中で育ったので士官としての献身を意識する機会はたくさんありましたが、人より劣る自分が人の魂を扱う働きなんて到底できない、と感じていました。神様にすべてを献げることは恐れでしかありませんでした。安定した収入や、すべての選択権が自分にあったからです。そんな私が「今の信仰ではいけない」と感じたのは、三年前の全国大会でのことでした。

「イエスを信じることは、人生を保障する保険に入るようなことではない」「イエスにすべてを献げることができるか」、「あなたは、いつまで居心地（いごこち）の良い場所にいるのか」という前大将の問いかけが胸に突き刺さり、まるで神様から今の私の状態を言われたように感じました。それから神様は、いろいろな形で私に問いかけられ、短期間にたくさんの人々の痛みに触れる機会が与えられました。問題を抱えている人々の深い闇（やみ）を知った時、日本は神様の愛が必要な人たちで溢（あふ）れていて、彼らが自分の力でその傷を癒そうとあがいている現実を突きつけられました。同時に、今まで私の人生に、たくさんの愛と恵みを神様が与えてくださっている、と気づくことができました。

二年前の任官任命式の招きの時に不思議とすべての恐れが取り去られ、人生を献げて士官という道を進む決心をしました。士官志願後も多くの試練がありましたが、弱さを覚える時、神様により頼んで明け渡すなら、すべてを神様が用意し、成してくださるということを体験しています。

「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている…あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。」（エレミヤ29・11、12）

私は本当に無力ですが、神様の御心（みこころ）を求め、期待し、喜んで恵みの学びの時を過ごしていきたいと思います。

〈連載〉　聖潔の流れに立つ　第六回

ウイリアム・ブースの聖潔

中将　張田　望

結婚

一八五五年六月、三年の婚約の後、ブースはカサリン・マムフォルドと結婚しました。

婚約中交わした多くの文通は、文面に神の御旨（みむね）を第一とする二人の献身の思いが込められ、互いに励まし合う思い、愛が満ちています。カサリンがウイリアムに与えた感化は計り知れないものがあります。

一八五八年、ブースは、按手礼（あんしゅれい）を受け、ゲーツヘッド教区担当の任につきました。教区の信者は少数でしたが、夫婦は活動に力を注ぎ、多くの人が回心したので教会は、「人間改造所」とまで呼ばれるようになりました。特に、カサリンは下町の様々な問題をもつ人人を戸別訪問し、成功をおさめました。また、『女性の宣教　女性が福音を宣教する権利』を著し、神の霊は女性にも注がれている、と聖書の実例をあげ、女性も男性と同じく神の働きに携わることを明らかにしました。また、高壇に立って自ら説教するようになりました。

ゲーツヘッドで活動中、二人が力を入れたことは、回心した人が、その後、聖（きよ）い信仰生活に導かれる必要がある、ということでした。

一八六一年二月十一日付の両親宛てのカサリンの手紙に、自分が体験した聖潔（きよめ）の恵みを書いています。そこには、カサリンが夢中で聖潔を追い求めたこと、御（み）言葉（ことば）に導かれながら、一日苦闘していたこと、夫が祈りに加わり、恵まれた時を過ごしたことが報告されています。その経験の結末を引用します。

「……彼は『あなたは聖くないのか』と言ったので、私は高まる心と、いささかの信仰をもって『私は聖いと思います』と答えた。すると即座に、私の信仰を確認させてくれる、次のような言葉が与えられた。『あなたがたは、わたしが語った言葉によって、すでにきよくされている。』私は、震える手で、感情にじゃまされずに、つかまえた。確信の初めの部分をしっかりとつかんだのだ。そして、それはますます強くなっていった。そしてそれ以後、主イエス・キリストにより、自分は罪に死に、神に生きる者なのだ、と大胆に考えるようになった。」（『聖徒募集中！』一〇二頁）

この時期、ウイリアムとカサリンは、「全き救い」という聖潔の教理を明確にし、定期的に語る決断をしています。彼らの主張する「全き救い」とは、ウェスレーの流れをくむ聖潔の教理であり、イエスが十字架によって示された贖罪の最終目的は内住する罪を征服し、それを取り除くことであり、その心は強力な悪の誘惑から守られ、聖く保たれるということでした。彼らにとっては、救いと聖潔とは一つのセットされたものであり、喜び溢れる信仰生活にはどちらも欠くことができないものでした。

救いと聖潔の軍隊

ウイリアムは巡回伝道者として活動することを天職であると信じていました。しかし、その道に進むことが困難となり、一八六一年、八年間所属したメソジスト新派を離れ、独立伝道者となりました。（続く）

お知らせ　連載「献身物語―十人十色―」は、しばらくお休みいたします。

『恵みを伝える者』の学年　候補生　眞鍋嗣道

「主の軍の将軍はヨシュアに言った。『あなたの足から履物（はきもの）を脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。』ヨシュアはそのとおりにした。」（ヨシュア5・15）

初めて神様が私に献身を語りかけられたのは、万国大会（二〇一五年）でした。日本がどれだけ神様の希望の光を求めているか、また神様は、そのための戦士を揃（そろ）えようとされている、と示され、神様に押し出されるように恵の座で祈りました。そして、神様のご計画のために私の身を献（けん）げたいと願うようになりました。そこから具体的に神様がどのように私を用いたいのかを祈り求めました。前回の全国大会（二〇一六年）で、前大将が「いつまでぬるま湯にいるのか」と問われた言葉が私の胸に突き刺さり、私が持っているものを一度手放し、神様の御顔（みかお）を慕い求めることに集中しました。

二〇一七年の日本ケズィックコンベンションで冒頭の御言葉が与えられました。

「神様が本当の主であって、私は、その後をついて行く僕（しもべ）」、「そんな偉大な方を前にして履物を脱ぎ、真にひれ伏す時、大いなる望みに支配され、カナンの地に進んで行った」ことを御言葉から知りました。自分も、今までの私の意志や生き方を捨てて献げきり、神様に真にひれ伏した時、神の軍勢に加えられることを教えられ、日本という国の人々が、約束の地カナンである天国に進んで行くための戦士としていただきたい、と示されました。

この召命を受け、応答し、準候補生になってからの歩みにも、神様は、真にひれ伏すためにたくさんの試練を私に用意されました。私の癌（がん）や妻の妊娠など、たくさんの痛みがありました。しかし、同時に試練を乗り越えた先にたくさんの恵みも用意してくださっていました。履物を脱ぎ、真にひれ伏し、神様について行くために、喜んで神様が用意してくださっている試練を受けていきたいと思います。そして大いなる望みである「約束の地」に進んで行きたいと思います。ぜひ祈りによって、私たち『恵みを伝える者』の学年候補生を支えてください。

集会報告

士官候補生歓迎集会
米国総司令官による講演会
3.11記念集会

4月　5日(金)午後7時　山室軍平記念ホール
2月21日(木)午後2時30分　同上
3月10日(日)、11日(月)　仙台小隊及び宮城県女川町

士官候補生歓迎集会

ジャパン・スタッフ・バンドの演奏するマーチ「ウェリントニアン」の勇壮な音に合わせ、救世軍本営旗を先頭に、『恵みを伝える者』の学年の眞鍋嗣道候補生及び眞鍋恵候補生が入場。会衆は拍手で迎えました。

士官学校の勝箆隆大尉の司会によって集会は進められ、石坂臣司少佐（青少年部長）の祈祷に続いて、司令官ケネス・メイナー大佐は、挨拶において新士官学校長ゲイル・ホワイト少佐や士官学校スタッフを紹介しました。

新しい学年の開始を象徴する、司令官による学年旗授与は、学年旗手眞鍋嗣道候補生の宣誓と、軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐の祈りによって、神聖な雰囲気の中守られました。

証言では、眞鍋候補生夫妻が、それぞれ、救世軍士官として訓練を受けるようにと神様から招かれた経緯を真摯に語りました（要約を4、5ページに掲載）。士官永年勤続賞授与式では、出席できなかった熊田光子少佐（30年章）以外の、6人の士官に対して、長年の奉仕への感謝を

表すと共に、主の恵みを分かち合う時をもちました。

司令官は、「神の油注ぎ」（ヨハネ15・1～8）と題して、力強く、そして、私たちにチャレンジを与えるメッセージを語り、多くの人々が聖霊に応答して、恵の座に進み出て、またグループになって祈りました。（会衆134人、恵の座5人・写真右より平本宣広少佐、木村照子少佐、樋口愛子少佐〈40年章〉、徳永幸次郎少佐〈35年章〉、山谷昌子少佐、荒井好光少佐〈30年章〉）

米国総司令官による講演会

米国総司令官デビッド・ハドソン中将、シャロン・ハドソン中将、ＳＡＷＳＯ職員ジェシカ・ホーウッド氏が来日し、東日本大震災の被災地の訪問と視察、プロジェクトの聞き取りがなされました。

２月19日（火）、宮城県南三陸町、20日（水）、宮城県女川町を視察し、21日（木）、山室軍平記念ホールで講演会「アメリカの救世軍活動」を開催しました。米国総司令官は、米国での救世軍の働き及び総司令部の働きについて語りました。救世軍は、その支援活動によって市民の信頼を得、地域の人的資源との連携によって、必要に応える働きをしていることなどを映像を用いて講演しました。

米国総司令官一行は、22日（金）に杉並地区の救世軍の施設を見学し、23日（土）離日しました。

3.11記念集会

ジャパン・スタッフ・バンド（ＪＳＢ）アンサンブルは、3月10日（日）、3.11を思いつつ仙台小隊で聖別会を守りました。（写真右）

翌11日（月）、台風並みの暴風雨の中でしたが、宮城県女川町で開催された「愛と希望のコンサート　大震災を覚える追悼記念会」に出演しました。この集会は超教派でおこなわれている追悼記念会で、今年8回目となりました。災害対策室仙台分室の粟飯原順中尉が司会進行をし、ＪＳＢアンサンブルの演奏、他に久米小百合さん（写真上）、向日かおりさん（写真右）による歌がありました。（会衆120人）

集会報告

士官任官式
新任士官任命式

3月24日(日)午後3時　山室軍平記念ホール
同　午後6時30分　同上

士官任官式

『憐れみを伝える者』の学年旗を手に、ジャパン・スタッフ・バンドによる演奏の中入場した樋口潔・光世候補生夫妻（写真右）は、高壇上で迎える司令官ケネス・メイナー大佐に天を指さす敬礼で挨拶をし、期待をもって見守る会衆に笑顔で応えました。

司会の石川一由紀少佐（人事・教育部長）は、会衆賛美「神の武具をとりてたち」を導き、本村いずみ少佐（士官学校付）が祈りを献げ、横浜小隊唱歌隊の合唱「このうるわしき大地に」を通して会衆はすべての創り主である神に心を向け、賛美の思いを共有しました。熊田光子少佐（士官学校長）による学年報告、広告・献金、会衆賛美「すべてをささげし」の後、司令官による任官の時がもたれました。勝箆隆大尉（士官学校付）が信仰宣言を導き、司令官はその宣言を受け入れ、それぞれを士官に任じ、中尉の辞令を授与。書記長官藤井健次大佐補による献身の祈りに続いて、樋口中尉夫妻は、献身の歌として「いかに悩み苦しみあれど」を賛美し、生涯のすべてが神の御手の中にあるとの確信を表しました。学年旗手樋口潔中尉より学年旗の返還がなされ、佐藤瑠兵士（清瀬）の聖書朗読の後、司令官は、「真実な神の憐れみ」（イザヤ61・1～3）と題してメッセージを語り（3ページに掲載）、憐れみを伝える者となるよう会衆を祈りへと招き、しばし熱心な祈りの時がもたれました。（会衆207人、恵の座7人）

新任士官任命式

ジャパン・スタッフ・バンドによる演奏の中、救世軍旗を先頭に、士官の制服に身を包んだ樋口潔・光世中尉が入場。熊田光子少佐（士官学校長）の司会によって進められ、まず、会衆賛美「神のつるぎを手にとるわれら」が声高らかに献げられました。石川和男少佐（東京東海道連隊長）が、新任士官の前途のため祈りを献げ、新任中尉は「すくいぬしイエスはむかし」を学年の歌として賛美しました。「主の霊よ降りて、憐れみを満たし、愛を告げ愛をおこのう者となしたまえ」との祈りが込められた賛美に一同も祈りを合わせる時でした。続いて、樋口光世中尉、樋口潔中尉は士官学校での2年間を振り返り、神様の導きについて証言をしました（4ページに掲載）。

司令官は、新任中尉を献げた新任中尉の両親である樋口和光少佐・愛子少佐夫妻、吉田司少佐・恭子少佐夫妻を高壇に招き、感謝の言葉を添えつつ、それぞれに銀星章証書、銀星章バッジ、そして、記念の聖書を贈呈しました（写真を表紙に掲載）。

続いて、『神の国を伝える者』の友安渚候補生の進級が発表され、いよいよ任命の時。司令官は、樋口潔中尉を帯広小隊長（兼）北海道連隊青少年部書記に、樋口光世中尉を帯広小隊付に任命。励ましの言葉を添えて辞令を授与しました。藤井千明大佐補（軍国女性部書記）が、任地と任地に向かう新任中尉のために祝福の祈りを献げました。

本村大輔大尉（杉並小隊長）が、仙台小隊長として士官学校に送り出した時のことを思い起こしつつ、共に主のために働く喜びを込めて歓迎の言葉を述べました。

新任士官によるプレゼンテーションは、神の憐れみを求める、苦しむ人々の状況をスクリーンに映し出した後、「わたしをお遣わしください」と、その人々ために主に立たされていることを賛美を通して証ししました。賛美には、来日中のクリス・マーケス大尉（米国中央軍国）も加わりました。軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐は奨励として、「旅では、まず自らの安全を確保する。神は、私たちをすべての災いから守ってくださる。自分の弱さに直面する時にもイエスに従うことによって守られる。全能の神により頼んで、神の与えてくださっている旅路を歩んでいこう」と語りました。

しばらく祈祷の時をもち、書記長官藤井健次大佐補が閉会祈祷を献げ、祝福あふれる一日を終えました。（会衆103人、恵の座10人）

関東東北連隊

新年懇親会

1月14日（月・祝）、前橋市にある群馬県青少年会館を会場に連隊長吉田司少佐指揮でおこなわれました。

司会は担当小隊の吉田敬大尉（前橋）。連隊の7小隊と長野分隊の戦友が集いました。

第1部の礼拝では、連隊バンドによる演奏もなされ、

三浦光子家庭団会計（佐野・写真下左）が、昨年の佐野小隊の家庭団は、近所から女性たちが集い、午前・午後と開かれて、昼食もあり、和気あいあいと恵みに満ちた交わりがなされた、と証言をしました。佐野小隊には、次から次へと新しい方が導かれています。

連隊内の新成人は、長野分隊の宮下愛実さん（写真下右）でした。参加はできませんでしたが、プロジェクターで和服写真が映し出され、参加者で祝福を祈りました。最後に連隊長は、「主の栄光を語り伝えよう」（歴代誌上16・23～27）との今年の救世軍の標語から語りました。

懇親（こんしん）会として、昼食会と第2部の交わり会の時をもち、

昼食前には長野分隊の高戸二三男さんの長野県中野市の桜を撮り続けた作品を通して「賛美する桜」写真スライドショーと説明がありました。ゲームあり、手遊びありと楽しく、次々に各小隊の紹介が進みました。年の始めに、連隊内の戦友が集い、交わりをもつことの大切さを実感する懇親会でした。懇親会終了後には、連合祈祷会が開かれ、参加者が5つのグループに分かれて祈りました。一斉に声を挙げて祈る姿は、素晴らしいものでした。（参加者58人　連隊報・写真右上から、熊谷小隊、桐生小隊、佐野小隊、前橋小隊の小隊ごとの紹介や賛美）

清瀬病院開設80周年記念集会

3月1日（金）、清瀬病院ホスピスチャペルにておこなわれました。書記長官藤井健次大佐補の司会で進められ、清瀬病院の稲葉裕病院長より挨拶（あいさつ）がありました。席上、司令官ケネス・メイナー大佐は、永年勤続の感謝状を授与（勤続30年1人、勤続20年1人、勤続10年4人）。総務課庶務係の眞鍋恵職員が献身の証言をした後、スライドショーで、病院の80年の歩みを振り返りました。医事課の繁田美枝子副主任が聖書朗読。司令官は、「共に」（フィリピ1・3～11）と題してメッセージを語り、軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐の祈祷で閉会。集会後には、記念の茶話会をもちました。

（会衆56人）

横須賀分隊リニューアル！

横須賀分隊は、横浜小隊の祈りと奉仕によって2012年に活動を再開しておりましたが、4月7日（日）、会館がリニューアルオープンしました。当日は、集った一人ひとりが一番好きな聖書の言葉を分かち合い、『救世軍歌集』からたくさんの賛美を歌い、魂の救いのために手をつないで心を合わせて祈りました。これからの分隊の働きためにお祈りをよろしくお願いいたします。

（横浜小隊・横須賀分隊報・写真は、横須賀分隊新会館の前で）

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

士官の家庭に生まれた子どもの会（OCA）

2月16日（土）、第30回を記念して、主催した歴代の青少年部長夫妻を招いて、山室軍平記念ホールで開催されました。

第1部の礼拝は、特別に編成されたブラスバンド（写真上右）が奏楽し、士官子女であるダニエル・ラボシエール特務曹長（青少年部）が、メッセージと、夫人のリエン・ラボシエール特務曹長と共に賛美をしました。（写真上左）

第2部は、地下の第二ホールに移り、すき焼きを囲みながら歓談と交流の時をもちました。3歳～90歳までの58人が集い、士官である両親を通して受けた神の恵みを、時の経（へ）つのも忘れて語り合いました。

なお、来年からこの会の主催は伝道事業部となります。

麻布小隊感謝会

3月31日（日）、麻布小隊は、118年の歴史に幕を降ろしました。

聖別会には、最後の説教者として、麻布小隊出身の西村保少佐（社会福祉部長）を迎え、また、各地より麻布小隊ゆかりの士官、戦友が駆けつけてくれました。

石川和男少佐（東京東海道連隊長）の司会で開会。元小隊長の立石貴美子少佐が開会祈祷を献（ささ）げ、多くの方々が麻布小隊との思い出の証言を披露しました。創立者の歌「主のみ救い」を賛美した後、西村少佐は「キリストを知るという知識の香り」（コリント二 2・14～17）と題して説教。説教後の祈祷会では、多くの戦友が恵の座で再献身の祈りを献げました。（会衆49人 うち子ども5人・写真下）

昼食会で、参加者全員が自己紹介と思い出を分かち合った後、午後1時30分より、京橋小隊の主導によって麻布十番商店街での野戦をおこない、バンドの音と共に福音を伝えました。（参加者21人・関連写真16ページ）

午後2時30分より、「写真でつづる 麻布小隊118年感謝会」を開会。午前の会衆がほとんど残る中、東京地区の他小隊の戦友方もさらに加わりました。

映像と動画で麻布小隊開戦より現在までを振り返りつつ、各時代に小隊を支えたゆかりの人々に思い出を語っていただきました。最後に連隊長は、麻布の歴史と業績を無にしないためにも、おのおのが再献身しなければならないとアピール。また、今日まで小隊を支えた6人の戦友にねぎらいのメッセージを送りました。最後に、「いかに悩み苦しみあれど」（『救世軍歌集』278番）を歌いながら、麻布小隊の軍旗が降納され、勝地次郎中将が軍旗の前で祈りを献げました。いつの日か、再び麻布の地に救世軍旗が翻（ひるがえ）ることを祈りながら一同散会しました。

（会衆74人　うち子ども6人・写真上）（小隊報）

西日本連隊 召天者合同記念会

4月7日（日）、晴天の中、大阪市の瓜破霊園にて、召天者合同記念会（京阪神地区）をおこないました。

今年は、召天者合同記念会に先がけて13時半より天満小隊長加藤直子大尉司式により、3名の天満小隊兵士、関係者の納骨式が執りおこなわれました。（参列者24人）

その後、14時半より、召天者合同記念会を開始。池田孝之特務曹長の司会で進められ、大阪セントラルホールバンド（ＯＣＢ）の演奏が響く中、賛美と御言葉を通して、天国を思いつつ、召天者を偲ぶ時でした。

連隊長添田美和少佐は、私たちの信じる神は「慈愛に満ちた父であり、慰めを豊かにくださる神」であること、「あらゆる慰めの神」は苦難の中にある人を慰めることができ、私たちもキリストから来る慰めによって人を慰めることができる、と語りました。先に召された愛する方々と同じように、神に頼り、ゆだねて歩み、永遠の命をくださるイエス・キリスト、天国の希望を信じて、与えられた命を生きることができるよう励ましました。

（会衆108人　うち子ども6人 連隊報・写真上より救世軍の共同墓地、召天者名簿を朗読する関根義行曹長〈天満〉、ＯＣＢ）

神田小隊

3.11記念集会～福島の今～

3月10日（日）午後、玄関先でしばらく案内した（写真左）後の2時より、福島県浪江町から東京に避難しておられる大坊雅一さんをお迎えして、震災と原発事故から8年が経った浪江町の現状についてお聞きする集いを開催しました。

大坊さんは、浪江町で長年、地元の方々から愛されたうなぎ屋を営んでおられ、救世軍浪江小隊のこともよくご存知です。東京に避難後は、浪江町などからの避難者のためのサロンの役員も務められました。また、軍国ＣＣＭ書記藤井千明大佐補は、双葉町への一時帰宅の様子、震災後の福島の方々と救世軍との関わりについてお話ししました。集会後は、救世軍の支援活動時に被災地にお届けした、「さくら茶」「かぼっ茶」（写真左）を振舞いました。

11日（月）は、12時20分に集いを開始。藤井千明大佐補が前日と同様にお話ししました。また、本営職員の齋藤恵子さん（浪江町出身・写真左）は、一時帰宅時の防護服着用の実演をしました。

原発事故の影響で故郷へ帰ることが未だ困難である多くの方々をおぼえ、福島の課題について思いを新たにする機会でした。震災発生から8年を経た東北各地のために祈り続けるよう教えられました。（会衆10日22人、11日23人　写真下10日大坊さん〈右から5番目〉を囲んで）

社会福祉部

■救世軍世光寮グループホームの竣工式

3月5日（火）、救世軍世光寮（児童養護施設）の第3グループホーム「カナ」の竣工式が、書記長官藤井健次大佐補の司式により、執りおこなわれました。軍国女性部書記藤井千明大佐補が記念の開錠をしました。書記長官は、「奇跡の始まるところ」（エフェソ3・14～21）と題してメッセージ。ホームの名前は、イエス・キリストが初めて奇跡を現されたカナの地名に由来し、施設で過ごす中で、子どもたちが将来に向けての奇跡を受ける場となるよう願いが込められました。席上、坂牛卓 一級建築士事務所 坂牛卓代表、菊池建設株式会社 吉村幸男常務取締役に感謝状を授与。それぞれからご挨拶をいただき、その後、内覧、歓談の時をもちました。

■救世軍豊浜学寮グループホームの開始

4月1日（月）より、救世軍豊浜学寮（児童養護施設）の第2グループホーム「ビリーヴ」の運営が開始されました。広島県呉市内の、市役所に近い場所に位置しているので、グループホームの存在によって、豊島にある本寮では叶えることの難しい、部活動やアルバイト等、子どもたちの体験に広がりを見ることができます。

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース !!

熊谷小隊

2018年12月23日（日）、第3回土曜学校日曜学校生徒里帰りの集いをおこないました。毎回来られる石坂臣司少佐（青少年部長）に加え、音楽ゲストに小谷野みぎわ唱歌隊長（京橋小隊）を迎えました。クリスマス聖別会では、長年土曜学校を開いてくださった久富俊子名誉家庭団書記に、元土曜学校生徒の青少年部長より感謝状が贈られました。

午後の第4回土曜学校日曜学校生徒クリスマスコンサートには、ピアノソロで福士美和子さんも出演してくださり、小谷野唱歌隊長による賛美と証言もありました。

機恵子寮

4月7日（日）、司令官ケネス・メイナー大佐夫妻が大森小隊において聖別会を導き、席上、4月1日に機恵子寮 新施設長に就任した高田祐介氏に、辞令書を授与しました。出席者一同で高田施設長と機恵子寮の働きのためにお祈りしました。

月島小隊

3月3日（日）、生井清少佐召天5年記念聖別会がおこなわれました（写真上）。ゲストに黒木純男少佐・登美少佐夫妻を迎えました。黒木少佐は、生井少佐夫妻が献身を示された時、戦場部長（伝道推進部門）として、生井少佐の一家と関わりがありました。

北海道をはじめとして各地から生井少佐の親族や親交のあった方々が集い、生井少佐の在りし日を偲び、御国への希望を再確認しました。

また、この日は、昭和33年に月島小隊が働きを再開した当時の人々や関係者（写真下）も集い、再開時の初代小隊長である黒木（旧姓・中川）登美少佐と共に旧交を温めました。（会衆　聖別会37人、愛餐会35人）

仙台小隊コミュニティセンター（仮称）起工式

昨年、強風で屋根がはがれ、使用できなくなった仙台小隊会館。多くの祈りと近隣の方々のご協力によって仮事務所で働きを進め、貸会場での礼拝を続けておりますが、この度、いよいよ仙台小隊コミュニティセンター（仮称）として、新会館建築の運びとなりました。

4月6日（土）、書記長官藤井健次大佐補の司式によって起工式が執りおこなわれました。暴風警報発令の中、テント設置が危ぶまれましたが、屋根部分なしで組み立て、予定通り午後2時に開始できました。

粟飯原順中尉（仙台小隊長）の司会によって式は進められ、山岸信寛会計の奏楽によって「いつくしみ深き」を一同で賛美し、粟飯原由美子中尉（仙台小隊付）が感謝の祈りを献げました。

永尾勉書記の聖書朗読の後、書記長官は「キリストを土台として」（ルカ6・47、48）と題して語りました。続いて、鍬入式の司式をナイジェル・ラスコム少佐（財産部長）がおこない、日本語で祈りが献げられ、設計士、施工責任者、書記長官によって、聖書が埋められました。「主われを愛す」を一同で賛美した後、藤井千明大佐補（軍国女性部書記）による祈りが献げられ、書記長官の祝福の祈りによって式を閉じました。

近隣から、町内会会長をはじめ多くの方々が出席され、神と人とに祝福された素晴らしい起工式となりました。（出席者30人・小隊報）

軍国ユースセミナー19

3月22日（金）～24日（日）、「DREAM BIG―pray like a child（大望を抱き、幼子のように祈る）」のテーマで、江東小隊を会場におこなわれました。ゲストに司令官ケネス・メイナー大佐及び軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐、米国中央軍国からクリス・マーケス大尉を迎えました。映画会、バイブル・スタディ、江東カフェ（江東小隊主催の地域奉仕プログラム）、グループ写真ハント、プレイズナイト等、様々なプログラムを楽しみました。夢を抱き、神様を伝える喜びを学びました。最終日、江東小隊の聖別会に参加し、小隊長ジェネシス・アプワン中尉より、メッセージを聞きました。（参加者36人）

写真上より、
・青年たちに語るクリス・マーケス大尉
・江東カフェの働きに参加
・最終日の聖別会

社会鍋の支援活動

（関連写真を16ページに掲載しています）

■遠軽小隊

12月、家庭学校、北光学園に文房具と手づくりお菓子をお届けしました。また、北光学園でのクリスマス会にも参加しました。阿部秀子書記がサンタクロースの姿で参加し、会を盛り上げました。

■札幌小隊

自立支援事業所「ベトサダ」、札幌市内「ファミリーホーム」5箇所、生活相談サポートセンター「ホープ」に米などの食料品を、アルコール・薬物・ギャンブル依存者社会復帰施設「青十字サマリア館」に電子レンジ、スポーツ用品をお届けしました。

■帯広小隊

12月7日（金）、少年院を訪問し、ブラスバンドの演奏と帯広小隊ママゴス（ゴスペルグループ）の歌、小隊長朝澤義人大尉によるクリスマスメッセージと、クリスマスケーキをお届けしました。

■広島小隊

2月1日（金）、社会福祉法人光の園 広島マック アディクションリカバリーセンター及びＮＰＯ法人風の家に、それぞれお米40㎏をお届けしました。

■呉小隊

● 12月27日（木）、天応地区仮設住宅に、断熱シートとうがい薬をお届けしました。

● 2月25日（月）、安浦やすらぎ作業所を呉保育園の園児と共に訪問し、園児によるタンバリン操練や手遊び歌などを披露し、作業所の方と共に歌遊びをしました。年長児クラスの子どもたちからの手作りペンダントをプレゼントし、社会鍋から、掃除機4台を寄贈しました。

■八幡小隊

2月、障がい者通所施設「アベック作業所」に、パンこね機を提供しました。芝原施設長から作業所の様子をお聞きし、焼きたてのロールパンを試食させていただきました。この作業所の手づくりのクッキーを、次の支援先への品物の一部として利用しました。続いて、母子支援施設「わかくさ」に、食料品などをお届けしました（17世帯分）。草場施設長より、施設の働きや、利用者に対する物心両面の支援の必要などについてお聞きしました。後日、支援を受けた母子から、お礼状が届きました。3月にも、子ども食堂や作業所を支援しました。

～女性部ラリーのご案内～

●北海道連隊　5月21日（火）、22日（水）
　テーマ　神のみ国をめざして　今を生きる
　会　場　岩見沢市　ログホテル メープルロッジ
●関東東北連隊・東北地区　6月18日（火）、19日（水）
　テーマ　神のみ国をめざして
　会　場　新潟小隊
●関東東北連隊・関東地区　5月15日（水）
　テーマ　神のみ国をめざして
　会　場　高崎小隊
●東京東海道連隊・東京地区　5月15日（水）
　テーマ　Bala Keselamatan
　　～インドネシアの地震と津波被害をおぼえて～
　会　場　神田小隊
●東京東海道連隊・東海道地区　5月22日（水）
　テーマ　神のみ国をめざして
　会　場　名古屋小隊
●西日本連隊　6月18日(火)
　テーマ　神のみ国をめざして
　会　場　岡山小隊　　※詳しくは申込書をご覧ください

ＹＰ（青少年部）・ファミリーニュース

大森小隊

● 2月10日、日曜学校教師奨励サンデーの聖別会に、青少年部長石坂臣司少佐、青少年部スタッフのダニエル及びリエン・ラボシエール特務曹長夫妻、関根悦子さん（通訳）を迎えました。ラボシエール夫妻は、賛美と証言をし、青少年部長は、「良い香りです」（コリント二 2・14～17）と題して、メッセージを取り次ぎました。

午後には、有名なキャラクターの服装で近所の2カ所の公園や街頭で広告し、多くの人が喜んで迎えてくれました。その後小隊会館でキッズタイム。楽しく賛美し、「えいごであそぼう」、ビンゴゲームなどをし、聖書から良い羊飼いであるイエス様が私たちを守ってくださることなどを学びました。お恵み豊かな楽しい時を過ごすことができました。

● 4月7日、進級お祝いサンデーに、司令官ケネス・メイナー大佐及び軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐を迎えて聖別会を守りました。席上、子どもたちの進級をお祝いし、一同で子どもたちの祝福をお祈りしました。（写真は通訳の中島美和大尉と子どもたち）

杉並小隊

2月10日、日曜学校教師奨励サンデーの聖別会の席上、西村光輝君（写真前列右から2人目）と宇賀神共基君(同右端）にジュニア・ソルジャーの進歩章（4年章）が授与されました。

また、西村優基君のジュニア・ソルジャー入隊式を本村大輔大尉（小隊長）の司式でおこないました。

（写真「ジュニア・ソルジャーの約束」を読み上げる優基君）

西日本連隊

おめでとう！
ジュニア・ソルジャー（JS）
進歩章受賞者
西日本連隊（1月20日新年懇親会の席上授与されました）
7年章　沖 永遠JS（泉尾）、　**立石 栄祈JS**（神戸）
2年章　沖 あかりJS（泉尾）
2年章　三澤 希実佳JS（泉尾・写真上）

泉尾小隊

3月31日（日）の「こどもと青年のための祈祷日」には、聖別会の中で子どもたちの進級をお祝いし、祝福を祈る時をもちました。（写真下）午後は、青少年伝道のために、近くの公園に出かけました。（写真上）

サマーインターンシップ19　参加者募集中！（詳細は応募用紙をご覧ください）

活動期間　2019年7月23日～8月8日　参加費　20,000円　募集人数　1～5人
応募資格15歳（高校生）～30歳の救世軍人（要小隊長の推薦）応募締切　5月26日

青木信次特務曹長　天に召さる

青木信次特務曹長（東京東海道連隊東海道地区・静清小隊所属）は、2019年3月15日、入所中の居宅介護施設より召天されました。97歳でした。

1921（大正10）年5月21日生まれ。1934（昭和9）年、小学校の時に、救世軍の天幕伝道から清水小隊に導かれました。

1939（昭和14）年、清水小学校代用教員となり、その後、従軍を経て終戦後は、清水市の小中学校で、教員、教頭、校長として青少年の育成に尽力されました。1947（昭和22）年、杉山千恵子と結婚。1982（昭和57）年退職後は、清水市教育委員会に勤務。2年後、日赤静岡県支部JRC（青少年赤十字）担当となり、1986（昭和61）年退職後は、妻が園長を務める保育園の運営を助けられました。1990（平成2）年、特務曹長の任を受け、東海道地区の伝道の先頭に立ち、超教派のギデオン協会静岡支部や朝祷会での働きにも携わり、熱心に活動されました。最晩年まで忠実な救世軍兵士・下士官として清水小隊（現静清小隊）を支え、歴代の小隊士官・戦友と共に救霊・奉仕の任を全うされました。3月18日（月）、東京東海道連隊長石川和男少佐の司式により告別式が執りおこなわれました。ご遺族の上に神様のお慰めをお祈りいたします。

ウェリントン・シタデルバンド 今冬来日！詳細後報

6月9日ペンテコステサンデー

あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。
使徒言行録1章8節

日本軍国での新しい働きのためにお祈りください！

軍国インターンシップ・ミニストリー（仮称）について

この度、青年たちの霊的成長と弟子訓練のためのプログラムを通して次代の指導者を養成する、軍国インターンシップ・ミニストリー（仮称）が設置されました。

これは、長年青少年部を中心におこなってきた活動に加え、近年アメリカから来日して活動した、弟子訓練プログラムや宣教チームの働きを参考にし、全国的な取り組みとして本営の伝道事業部の下に置かれます。

この春より、軍国インターンシップ・ディレクターとして、石坂臣司少佐が、軍国インターンシップ・ディレクター補佐として、石坂奈緒美少佐がそれぞれ任命されました。今後正式な活動開始のための準備がなされます。どうぞこの新しい働きのためにお祈りください。

～集会のご案内～

●克己週間献納集会

日時　5月10日（金）午後7時～
会場　渋谷小隊　※前広報版での情報が間違っておりました。訂正してお詫び申し上げます
合唱　ジャパン・スタッフ・ソングスターズ
演奏　渋谷小隊バンド
説教　人事・教育部長　石川一由紀少佐

●救世軍創立154年記念コンサート
第3回救世軍社会鍋俳句コンテスト授賞式

日時　6月16日（日）午後3時～
会場　山室軍平記念ホール
合唱　渋谷小隊唱歌隊及びユース
演奏　ジャパン・スタッフ・バンド
説教　本村大輔大尉（杉並小隊長）

●候補生夏期訓練任命集会

日時　6月21日（金）午後7時～
会場　山室軍平記念ホール
合唱　杉並小隊唱歌隊
演奏　ジャパン・スタッフ・バンド
説教　士官学校長　ゲイル・ホワイト少佐

すべて入場無料（席上献金あり）どなたでもご参加いただけます！Welcome!!

救世軍歌集　作者物語

連載231

397　朝日かがやく（佐々木捷子）（1905－1986）

作者は救世軍士官。大阪市に生まれ、大阪、京都で育った（旧姓住田）。高等小学校の頃より短歌を趣味としていた。大正7（1918）年、一家をあげて中国・大連に渡った。捷子はその地の高等女学校に学び、大連小隊で兵士となった。日本に帰国後、関東大震災に遭うも、無事守られ、大正13（1924）年、深川小隊より献身した。1927年に佐々木喜助大尉と結婚。以後、夫と共に各地で伝道の働きに従事した。戦中戦後の混乱期、捷子は五男四女の母として、また士官としての厳しい日々を短歌に詠んだ。1949（昭和24）年、夫と共に少佐の階級で引退し、以後は天満小隊に属した。昭和42年に夫を、53年に長女を天に送った後、自身も病を得て入退院を繰り返し、81歳の生涯を閉じた。

この歌は、1976年11月の作で、その年におこなわれた家庭団団歌の募集に応募して当選したものである。

398　富士の高嶺の雪よりも（宮川勇）（1889－1945）

作者についての解説は、396番を参照のこと。

この歌は、宮川勇が救世軍の依頼に応じて、「家庭団団歌」としてつくったもので、日本的なイメージを歌い込んで「富士山」や「桜」などの言葉を入れている。曲は、日清戦争の時、日本赤十字社が看護婦を戦地に派遣した際につくられた「婦人従軍歌」（1894年、奥好義作曲）である。

この歌に関しての記事が、昭和8（1933）年の『ときのこえ』3月1日号に出ている。それによると、高城ふさ中佐夫人（日本の救世軍草創期、山室軍平、矢吹幸太郎に続いて救世軍士官となった高城牛五郎の夫人）が家庭団の集会でこの歌を導いていると、山室軍平中将は、「良い歌だからもう一度」とリクエストし、結局3回も繰り返して会衆に歌わせたということである。これは中将の愛唱歌であった。

◇おしらせ◇

1999年より連載してきました『救世軍歌集 作者物語』も今回が最終回となりました。長い間のご購読を感謝いたします。なお、現在、この記事の書籍化を計画しています。ご期待ください。

編集部

救世軍見解表明

社会道徳に対する救世軍の立場

第1回「人工妊娠中絶」（1）

万国本営は、『救世軍見解表明』のデザインを一新し、万国本営のホームページにおいて6カ国語で公開しています。日本語での公開を目指し、『ときのこえ』（広報版）で紹介してまいります。

人工妊娠中絶についての見解表明

救世軍は、すべての人が神の姿に似せて造られたこと、それゆえにすべての人には固有の、ユニークな価値があることを信じます。人の命は聖なるものであり、すべての人は、尊厳と敬意とをもって取り扱われるべきです。救世軍は、母の胎における懐妊によって、その人の人生が始まることを受け入れます。私たちは、社会が、他者に対する思いやりをもつ責任があると信じます。特に、胎児を含む弱者の福祉、安寧（あんねい）を図る責任があると信じます。

救世軍は、命が神からの賜物であり、私たちには、その命の取り扱いについて神に答弁することができなければならないことを信じます。それゆえ、救世軍は、中絶が受け入れられつつあることに心を痛めています。そのことが、胎児を含む、弱者に対する配慮が十分ではないことを示しているからです。私たちは、胎児が遺伝子の異常を持っていることが判明しても、誕生後も相当の期間生きることが想定される場合、そのことが中絶を認めるのに十分な理由となることを信じません。妊娠に関して、困難な決定をしなければならない、辛（つら）い、複雑な状況が存在することを救世軍は認めます。予期しない妊娠の期間中の大きなプレッシャーを認識しつつも、決定は、祈り深く、十分に考慮したうえでなされなければなりません。生まれることのなかった子どもの両親、特に母親に対して、適切な牧会的、医学的な助言がなされることは、このことに関わるすべての人の責任です。救世軍は、次のような場合においてのみ、中絶がおこなわれることを認めます。

- その妊娠によって、母体に死の危険が生じるような時。
- 信頼に足る検査診断の結果、その胎児が生後すぐに亡（な）くなることが判明している時。

さらに、レイプや近親相姦（きんしんそうかん）が暴力的におこなわれ、その結果、女性が身体的に、また精神的に侵されている時。この状況は、妊娠の継続によって暴力的影響が悪化する可能性があるために、妊娠状態の継続を断念することを検討するための特別なケースです。

救世軍は、宗教的、倫理的な理由によって、中絶を受け入れることができないと感じている女性のケアにあたる専門職の方々の存在を認め、彼らを支持します。

（次号に続く。次号より、この声明に対する説明を掲載いたします）

救世軍公報

転任（カッコ内は任命日）

補関東東北連隊長（五月一日付）
藤井健次大佐補
補関東東北連隊連隊女性部書記（五月一日付）
藤井千明大佐補
補書記長官（五月一日付）
西村　保少佐
補軍国女性部書記（五月一日付）
西村和江大尉

昇任

任大佐補（五月一日付）
西村　保少佐
以上
大将　ブライアン・ペドル
二〇一九年三月七日発令

転任（カッコ内は任命日及び継続任命）

補高崎小隊長（四月十一日付）
補（兼）関東東北連隊青少年部書記（後報）
細貝信義大尉
補高崎小隊付（四月十一日付）
細貝のぶ江大尉
前橋小隊長を継続
（兼）関東東北連隊青少年部書記の任を解く（後報）
吉田　敬大尉
前橋小隊付を継続
吉田知恵子大尉
二〇一九年二月二十一日発令

〈訂正とお詫び〉『ときのこえ』（広報版）第二七八一号12ページの新成人のお名前が間違っておりました。正しくは、横浜小隊謝恩揚兵士です。訂正してお詫び申し上げます。

補関東東北連隊長（臨時）
（三月二十八日付　（兼）桐生小隊付、（兼）災害対策室東北地区顧問）
張田　望中将
二〇一九年三月七日発令

任命（カッコ内は任命日）

任中尉（三月二十四日付）
樋口　潔候補生
任中尉（三月二十四日付）
樋口光世候補生
補帯広小隊長
（兼）北海道連隊青少年部書記（三月二十八日付）
樋口　潔中尉
補帯広小隊付（三月二十八日付）
樋口光世中尉
二〇一九年三月二十四日発令

転任（カッコ内は任命日及び継続任命）

補（兼）災害対策室東北地区担当（五月一日付）
補（兼）救世軍佐野保育園チャプレン（七月一日付）
藤井健次大佐補
補（兼）災害対策室東北地区担当（五月一日付）
補（兼）救世軍佐野保育園チャプレン（七月一日付）
藤井千明大佐補
（兼）災害対策室を解く（五月一日付）
（人事・教育部長、（兼）教育部長、（兼）銀星章書記）
石川一由紀少佐
士官学校付を解く（七月一日付）
補（兼）軍国CCM書記（五月一日付）（杉並小隊付（主任命））
本村いずみ少佐
補（兼）関東東北連隊青少年部書記（五月十日付）
細貝信義大尉
（兼）関東東北連隊青少年部書記の任を解く（五月十日付）
吉田　敬大尉
補（兼）医療部チャプレン（五月一日付）
（兼）医療従事者交友会書記を解く（七月一日付）
西村和江大尉
補ブース記念病院・老健グレイス・恵みの家チャプレン
（兼）医療従事者交友会書記（七月一日付）
柞山順子中尉
浜松小隊長を主任命とする
（兼）東京東海道連隊（東海道地区）連隊長補佐　四月二日付）
太田晴久少佐
新潟小隊長補佐の任を解く（三月二十七日付）
中川邦男少佐
熊谷小隊長の任を解く（五月三十一日付）
川口綾子少佐
二〇一九年三月三十日発令

新施設長

機恵子寮施設長　高田祐介
二〇一九年四月一日付
以上
司令官　ケネス・メイナー
熊谷小隊は連隊長管轄となる（六月一日付）
佐野小隊は連隊長管轄となる（七月一日付）

写真位置
①
②③
④⑤
⑥

①麻布小隊感謝会の聖別会後の午後、京橋小隊の主導によって麻布十番商店街での野戦をおこないました。麻布十番商店街の皆様のご理解を得て、長年野戦がおこなわれていました。（関連記事8ページに掲載）

社会鍋支援活動アルバム

社会鍋支援活動アルバム
②広島小隊によるお米の支援
③呉小隊による断熱シートの支援
④八幡小隊による作業所への支援
（②～④の関連記事は、13ページに掲載）
⑤横浜小隊を拠点にした、街頭生活者支援
⑥東京地区数カ所での街頭生活者支援

創立者　ウイリアム・ブース　大将　ブライアン・ペドル（万国本営　英国ロンドン）　日本司令官　ケネス・メイナー（救世軍本営　東京都千代田区）　http://www.salvationarmy.or.jp

発行日及び定価
▼発行日
福音版・毎月一日発行
広報版・奇数月十五日発行（除く七月）
▼定価
福音版・一部　四〇円
広報版・一部　一〇〇円
クリスマス特集号（十二月一日号）・一部　一〇〇円
振替・〇〇一八〇―五―四四〇〇
発行兼印刷人　救世軍　代表者　ケネス・メイナー
編集人　寺澤　眞由子
〒101―0051　東京都千代田区神田神保町二ノ十七
電話　東京(03)三三七―〇八八一
発行所　救世軍本営
印刷所　株式会社ビーアンドエス

（取扱支部）

聖書は新共同訳を使用しています　©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会